

# SHOW HEY シネマルーム

★★★

## オリент急行殺人事件

2017年/アメリカ映画  
配給：20世紀フォックス映画/122分

2017 (平成29) 年 12月9日鑑賞 TOHOシネマズ西宮OS

### Data

監督：ケネス・ブラナー  
原作：アガサ・クリスティー『オリ  
エント急行殺人事件』  
出演：ケネス・ブラナー/ジョニ  
ー・デップ/ミシェル・ファ  
イファー/デジー・リドリ  
ー/ジュディ・デンチ/ペネ  
ロペ・クルス/オリヴィア・  
コールマン/ウィレム・デフ  
オー/レスリー・オドム・J  
r/ジョシュ・ギャッド/ト  
ム・ベイトマン

### ■ショートコメント■

◆推理小説の好きな人なら誰でも、アガサ・クリスティーの代表作である『オリент急行の殺人』を読んでいるだろうが、私はそれをいつ読んだか覚えていない。そのため、本作を楽しみにしていたが、本作はハッキリ言って難しすぎる。名探偵ポアロ（ケネス・ブラナー）の推理力はもちろん尊敬するが、その尋問の仕方はイマイチ……。いくら名探偵でもここまで偉そうに尋問する権限が一体どこにあるの……？

ちなみに、本作を鑑賞した同じ日の夜、私は自宅のテレビで1974年版の『オリент急行殺人事件』を見たが、そこでもポアロ探偵の大物ぶりは同じだった。もっとも、ここでは、映画冒頭でアームストロング誘拐事件のあらすじが紹介されていたから、それがオリент急行内でのエドワード・ラチェットの殺人事件に如何なる関係があるのかというテーマが最初から提示されていたが、本作ではアームストロング誘拐事件の内容が犯人解明に至る過程の中で小出しにされるので、余計にわかりにくい。これではひょっとして、本作に限っては映画で観るより、一人でじっくり本を読みこんだ方が楽しいかも……。

◆「オリент急行」がどこからどこまでを走っている長距離列車なのかは、小説や映画の中で明らかだが、それをスクリーン上で表現するについては、本作と1974年版では大きく違っている。このことは、同じ日に映画とテレビの両方で鑑賞したためよくわかった。

いかに高性能な列車でも、雪の中を走るのは大変。そのことは、ボン・ジュノ監督の近未来モノで列車モノの最高傑作のひとつ『スノーピアサー』（13年）（『シネマルーム32』234頁参照）をみれば明らかだが、それは脱線事故を起こしてしまう本作でも同じだ。もっとも、ヘタをすれば乗客全員が死亡してしまうほどの大事故になるはずだが、それは映画にならないため、ちょっとした脱線とどまったのはラッキー。しかし、それでも

救援が来るまでのしのぎ方は大変だ。

もともと、その時間が長ければ長いほど、殺人犯の特定に挑むポアロ探偵にはありがたいが、さてその時間的余裕はどれくらい・・・？

◆殺人事件の犯人は誰？単独犯？それとも共犯者がいるの？もしいるなら、それは一体ダレ？ポアロが犯人捜しをするについて、密室であるオリエント急行内にはたくさんの乗客が乗っていたから、その一人一人の尋問は大変。さらに、本作が面白くかつ複雑なのは、それらの乗客すべてが何らかの形で、あの、アームストロング誘拐事件に関係を持っているためだ。

ポアロ探偵に扮するケネス・ブラナーはもちろん、殺されるラチェット役のジョニー・デップをはじめとして、本作に登場する俳優はビッグネームばかり。そんな連中が基本的にポアロの尋問に対して嘘ばかりついているのだから、限られた時間内での真相究明はそりゃ大変。

しかして、あなたの推理はどう？ポアロの推理にどこまでついていけるの？また、本作の結論にどこまで納得できる？本作の鑑賞については、約2時間、頭をフル回転させることが不可欠だ。

2017（平成29）年12月14日記